

徳島県

埋蔵文化財センター年報

Vol. 13 2001年度

2002

徳島県埋蔵文化財研究会



調査地点・城山「右上」(中徳島町1丁目遺跡)



徳島藩家老屋敷跡 (中徳島町1丁目遺跡)

はじめに

本書は平成13年度に徳島県埋蔵文化財センターが実施した事業の概要をまとめたものであります。

13年度は大規模事業の減少に伴い、徳島県が実施する一般公共事業関連調査が中心となりました。このうち徳島環状線（国府工区）に係る観音寺遺跡、敷地遺跡、池尻 桜間遺跡では前年度に引き続き、それぞれ阿波国府北線の土地利用状況を示す多くの成果が得られました。

徳島城下町の調査も毎年継続しておりますが、県立城東高等学校校舎改築工事に伴って実施した中徳島町1丁目遺跡は徳島藩家老屋敷跡にあたり、当時の生活を彷彿させる遺構 遺物が数多く検出されました。その成果についても、現地説明会等で公開に努めたところでありませぬ。

普及事業では、四国横断自動車道関連調査の終了を踏まえ、当該事業に係る古墳時代を中心とする展示、講演会を開催いたしました。多数の参加者を得ることができました。

また昨年度から行っていた鳴門市西山谷2号墳の移築 展示工事もこのたび完了したところであり、今後効果的な活用を図って参りたいと考えております。

最後になりましたが、関係各位並びに関係機関に御礼申し上げますとともに、今後とも一層の御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年6月

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
理事長 松村 通治

目 次

I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要	5
II 平成13年度事業概要	6
III 調査事業報告	9
県単独事業等関連発掘調査	
中徳島町1丁目遺跡	13
徳島城下町遺跡(出来島本町1丁目地点)	15
観音寺遺跡	16
敷地遺跡	17
池尻 桜間遺跡	19
矢野遺跡	20
石井城ノ内遺跡	21
古町遺跡	22
町口遺跡	24
中庄東遺跡	25
大柿遺跡	26
外部委託事業関連発掘調査	
中庄東遺跡	27
東州津遺跡	28
試掘調査	29
大山遺跡	田井遺跡
天神遺跡	中庄東遺跡
圃場整備関連調査	30
中田遺跡	椿地遺跡
別所遺跡	蒲生田遺跡
遺跡地図整備事業	31
IV 整理事業報告	32
V 埋蔵文化財センターの活動	33

例 言

- 1 本書は財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成13年度事業をまとめた年報である。
- 2 III事業報告に関する地形図は国土地理院発行1/50,000地形図を転載したものであり、各国に図幅名を記した。
- 3 III事業報告の概要は各担当が執筆し、その責を文末に記した。
- 4 本書の編集は菅原 原が行った。

平成13年度 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの組織

役員

理事長	
松村 通治	県教育長
副理事長	
河口 浩三	県教育次長
専務理事	
本浄 敏之	
常務理事	
伊丹 康裕	県教育委員会参事
理事	
岡田 一郎	
日下 雅義	
村上 光明	県教育委員会教育総務課長
岸本 哲哉	県教育委員会教職員課長
吉田 一紀	県教育委員会文化財課長
竹岡 忠	県土整備部県土整備政策課長
中川 順二	県土木部監理課長
監事	
高木 直規	県副出納長
大岡 慶久	県教育委員会生涯学習課長

職員

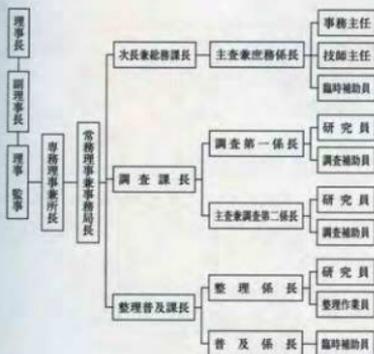
所長	本浄 敏之
事務局長	伊丹 康裕
総務課	
次長兼総務課長	高野 明
主査兼係長	福本紀美子
事務主任	田所 政儀
技術主任	原田 敏夫
	榎原 義則 (徳島県土木技術協会派遣)
臨時補助員	福本 桂子 三木ちひろ 大西真千子 作田加奈子

調査課

調査課長	菅原 康夫
調査第一係長	光山 忠幸
研究員	喜多 啓二 高橋 栄子 井藤 良雄 松田 貢 樋谷 久代 齋 浩市 相原 聡 木村 哲也 近藤 佳人 梶河 智江 須崎 一幸 原 芳伸 近藤 玲 島田 豊彰

調査補助員

猪本 泰子 岡本 和彦
岡本 聖子 川真田隆子
北村 啓子 京寛 裕子
杉本 道子 高田 幸時
富本 光 中田 和美
中村 太 橋本 直幸
本那 令子 宮井 孝幸
森口 尚志 森田 猛
主査兼調査第二係長
新居 文和
研究員
深田 晃司 宮谷 純弘
佐藤 治史 堤 英明
高田 史子 宮本 格



岩佐 正人 森江 孝志
大北 恭宏 元木 浩司
山本 和弘 高柳 孝治
川村 哲夫 河野 啓介
田所 賢治 林 賢彦
氏家 敏之 田川 憲
大橋 育順

調査補助員

市原 靖子 木全加珠美
小松いづみ 笹野 恭平
佐藤 千佳 四宮 美香
島田 麻美 高居あゆみ
高尾 和彦 高橋 奈巳
武田美千代 田中 香織
中嶋 絵美 中村正登士
長瀬 尚子 新居 秀樹
濱上 千鶴 平沼 彩子
山本 成美 山本 裕司

整理普及課

整理普及長 鳥巡 賢二
整理係長 貞野 保人
主任研究員 久保脇美朗 藤川 智之
研究員 岡山真知子 新居 照代
鳥野 美子 斉藤 剛
泊 強 四宮 玲子
横田 温生 下窪 光俊
金森 映人 佐藤美和子
森 弥生 日下 正剛
小泉 信司 栗林 誠治
大北 和美 植地 岳彦
幸泉 満夫
普及係長 青木 秀明
臨時補助員 高尾 准子 数朋 一美
小川 真由

I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要

1 設立の目的

財団法人徳島県埋蔵文化財センターは、徳島県内における埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、文化財の保護意識の啓発、普及を図り、もって地域文化の振興に寄与することを目的とする。

2 事業の内容

- (1) 埋蔵文化財の調査及び研究に関する事業
- (2) 出土した文化財の整理及び保存に関する事業
- (3) 埋蔵文化財の活用及び保護意識の啓発、普及に関する事業
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

3 設立年月日

平成元年4月1日

4 出資者

徳島県

5 基本財産

10,000千円

6 事務所所在地

徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2

Ⅱ 平成13年度事業概要

1 理事会の開催

第47回臨時理事会

- 開催日 平成13年4月1日
議案 役員を選任について

第48回通常理事会

- 開催日 平成13年6月18日
議案 平成12年度事業報告について
平成12年度事業収支決算について
平成12年度未処分剰余金の処理について

第49回通常理事会

- 開催日 平成14年3月18日
議案 平成13年度事業収支予算の補正について
平成14年度事業計画案について
平成14年度事業収支予算案について
財団法人徳島県埋蔵文化財センター情報公開要綱等の制定について

2 事業の実施状況について

(1) 埋蔵文化財発掘調査

徳島県から委託を受け、次の発掘調査を行った。

- ① 加茂第1堤防の事業に伴う埋蔵文化財調査で、1遺跡3,847㎡の発掘調査を実施した。
- ② 一般国道32号井川IC関連改良工事に伴う埋蔵文化財調査で、1遺跡714㎡の発掘調査を実施した。
- ③ 一般国道192号徳島南環状線（大野地区）関連埋蔵文化財調査で、1遺跡629㎡の試掘調査を実施した。
- ④ 一般国道55号日和佐道路（田井地区）関連埋蔵文化財調査で、1遺跡295㎡の試掘調査を実施した。
- ⑤ 徳島公共職業安定所および徳島障害者センター庁舎新工事に伴う埋蔵文化財調査で、1遺跡650㎡の発掘調査を実施した。
- ⑥ 徳島県事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

建設事業の工事予定ヶ所で90,369㎡の調査を実施した。

徳島環状線（国府工区）建設工事に伴う埋蔵文化財調査で、61,506㎡の発掘調査を実施した。

県立城東高等学校校舎改築工事関連埋蔵文化財調査で、13,204㎡の発掘調査を実施した。

道路改良事業（住宅関連）（板野川島線）建設工事関連埋蔵文化財調査で、1,204㎡の発掘調査を実施した。

道路改良事業（宮川内牛島線）建設工事関連埋蔵文化財調査で、1,085㎡の発掘調査と35㎡の試掘調査を実施した。

道路改良事業（出口太刀野線）建設工事関連埋蔵文化財調査で、3,155㎡の発掘調査を実施した。

道路局部改良事業（一般国道神山国府線）関連埋蔵文化財調査で、725㎡の発掘調査を実施した。

県代行緊急地方道路整備事業（光下新町線）関連埋蔵文化財調査で、4,100㎡の発掘調査を実施した。

県営住宅（石井曾我団地）建設工事関連埋蔵文化財調査で、2,555㎡の発掘調査を実施した。

県営圃場整備事業（立江梯河地区）関連埋蔵文化財調査で、500㎡の試掘調査を実施した。

県営担い手育成基盤整備事業（福井川地区）関連埋蔵文化財調査で、500㎡の試掘調査を実施した。

県営担い手育成基盤整備事業（岩倉地区）関連埋蔵文化財調査で、1,300㎡の試掘調査を実施した。

中山間地域総合整備事業（椿東部蒲生田地区）関連埋蔵文化財調査で、500㎡の試掘調査を実施した。

遺跡地図整備事業で、那賀郡、小松島市の全域、勝浦郡、徳島市の一部24,504㎢の遺跡精密分布調査を実施した。

(2) 出土文化財整理

徳島県から委託を受け、次の出土文化財の整理業務を行った。

① 四国縦貫自動車道建設工事関連で、出土文化財1,120箱の整理業務を実施した。

② 一般国道徳島南環状道路改築関連で、出土文化財840箱の整理業務を実施した。

③ 徳島県等の事業関連出土文化財整理

県営住宅（石井曾我団地）建設工事関連で、出土文化財140箱の整理業務を実施した。

文学館 書道美術館（仮称）整備事業関連で、出土文化財140箱の整理業務を実施した。

県道板野川島線道路改築事業関連で、出土文化財140箱の整理業務を実施した。

県代行緊急地方道路整備事業（町道光下新町線）関連で、出土文化財210箱の整理業務を実施した。

道路改良事業（出口太刀野線）関連で、出土文化財210箱の整理業務を実施した。

(3) 発掘調査報告書の発刊

発掘調査結果を報告書として作成し刊行した。

- 矢野遺跡Ⅱ群（徳島南環状道路改築事業に伴う出土埋蔵文化財整理）
 南前川町1丁目遺跡（鳴門教育大学（附小）校舎新営に伴う出土埋蔵文化財整理）
 大柿遺跡（四国縦貫自動車道建設工事関連出土埋蔵文化財整理）
 土井遺跡（四国縦貫自動車道建設工事関連出土埋蔵文化財整理）
 吉水遺跡（四国縦貫自動車道建設工事関連出土埋蔵文化財整理）
 観音寺遺跡 木簡篇（徳島南環状道路改築事業に伴う出土埋蔵文化財整理）
 原遺跡 他（四国縦貫自動車道建設工事関連出土埋蔵文化財整理）
 花園遺跡 他（四国縦貫自動車道建設工事関連出土埋蔵文化財整理）
 古町遺跡（県道板野川島線道路改築事業に伴う出土埋蔵文化財整理）

(4) 普及、啓発活動

- ①埋蔵文化財速報 企画展「2001発掘とくしま」を開催した。
 ②埋蔵文化財移動展を脇町で開催した。
 ③発掘調査成果報告会及び関連の講演会を開催した。
 ④徳島市中徳島町1丁目遺跡他で、現地説明会 発掘体験会等を実施した。
 ⑤市町村埋蔵文化財担当職員研修会を開催した。

3 収支決算報告

財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成13年度収支決算は次のとおりである。

(1) 収入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
1 基本財産運用収入	4,000	4,006	6	
2 事業収入	1,907,957,000	1,907,957,562	562	
3 雑収入	132,000	132,146	146	
4 繰越金	5,520,000	5,520,938	938	
合 計	1,913,613,000	1,913,614,652	1,652	

(2) 支出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
1 事業費	1,778,016,000	1,778,010,071	△5,929	
2 管理費	91,637,000	85,988,766	△5,648,234	
3 その他支出	3,721,000	3,720,625	△375	
4 消費税	40,239,000	40,238,100	△900	
合 計	1,913,613,000	1,907,957,562	△5,655,438	

Ⅲ 調査事業報告

平成13年度は同年4月1日付けで締結した業務委託契約書に基づいて事業を実施した。本年度は埋蔵文化財センター設立以来、初めて日本道路公団関係の発掘調査がなかった。四国横断自動車道鳴門以南の区間については、計画路線が吉野川氾濫原、海岸沿いに設定されているため、本調査の必要が生じる場合においても、従来のような規模の調査はないと考えられる。高速道路以外の大規模調査も今後2～3年間に概成する見込みであり、以後は縮小傾向で推移するものとみられる。

三好町大柿遺跡は、昭和49～50年の吉野川北岸農業水利事業、平成8～9年度の四国縦貫自動車道建設事業、平成10年度からの県代行地方道路整備事業の3期の調査によってほぼ遺跡の範囲が確認された。今後、周辺地点で調査の予定はなく、北岸用水時に検出された弥生時代前期末～中期の集落中心部の実態把握の課題は残ったが、おおむね集落の具体相は明らかになったと思われる。過去の調査では遺跡西端部において縄文後期の遺物の出土が確認されていたが、今回の調査では縄文時代中期末～後期の土坑群が検出された高速道路部分の調査では後期から晩期にかけての遺物が検出されており、大柿遺跡西辺に形成された微高地の一角に遺構の存在することが追認された。

阿南市蒲生田遺跡では昨年度に引き続き、太平洋に面した浜堤内側に形成された潟湖の堆積土から船元ⅡⅢ式を中心とする縄文土器・石器が検出された。

徳島市観音寺遺跡では木簡を包含する舌洗川の延長部を調査したが、従来の流路とは異なる流れが錯綜していることを確認した。7世紀前半～半ばの流路から木簡や榧、8世紀前半の流路から木製祭祀遺物に加え、郡名の表記とみられるものなど6点の木簡が出土した。

池尻 桜間遺跡では条里溝、畦畔等に加え200基を越す土壌墓群が検出された。既出例を加えると300基を越す。従来の調査でも同一方向で2～3基平行して構築されることが確認されている。土壌墓の類例は三加茂末石遺跡、同中庄東遺跡、徳島市観音寺遺跡、敷地遺跡で確認されているが、官衛施設外縁部に位置し、地割りの規制を受けている。隅丸長方形の平面形を呈し、長軸1.5～2m、短軸1m、深度1m程度で、列状墓を形成する傾向がある。土壌分析の結果からも墓である蓋然性が高い。

埋土は黒褐色粘質土と黄褐色粘質土の互層で、掘り方に沿って幅1cm程度の木棺痕跡とみられる粘質薄層の立ち上がりが見られる例が多い。互層埋土は意図的に埋めた結果である可能性が高いが、埋土パターンの検討が必要である。副葬遺物は皆無であるが、飛鳥Ⅱ期段階の土器片を混入するものがあり、7世紀を遡る例がある。

池尻 桜間遺跡では群ごとの間隔は10mあける傾向があり、残存地割り方向N10°Wに沿う一群、それに直交する一群がある。観音寺遺跡ではさらに西に主軸を振った土壌墓群とそれに直交する主軸をもつ土壌墓群があり、一定の年代幅のあることがうかがわれる。

古町遺跡では9世紀後半のN10°Wの条里地割りに沿う溝や掘立柱建物等新たに検出された。今回の調査では同時期の鍋振り葬とみられる土壌墓が検出された。土壌周囲に上層構造などの痕跡は検出されていない。人骨鑑定では病変等の所見を得るまでには至らなかった。周辺には掘立柱建物や他の土壌墓が点在するようであり、通常の墓構築条件と変わるところがない。東日本の既出例に比べ年代的懸隔が大きいのが、四国初の例であり、初現様相を示す例として注目されるものである。

中世では吉野町町口遺跡、三加茂町中庄東遺跡、徳島市敷地遺跡の調査を実施した。敷地遺跡では龍

泉窯系青磁碗が副葬された鎌倉時代の木棺墓が検出された。

徳島城下町遺跡の調査は徳島城下町遺跡（出来島本町1丁目地点）と中徳島町1丁目遺跡で実施した。中徳島町1丁目遺跡では調査区西半に徳島藩家老蜂須賀氏の屋敷地が位置しており、中興 奥と呼ばれる部分に関する遺構が検出された。（菅原）

県単独事業等関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	中徳島町一丁目遺跡（徳島県立城東高等学校校舎改築事業）	徳島市中徳島町1丁目5番地	3,301㎡ (調査面積) 13,204㎡ (延べ面積)	H13.4.1～14.12.31	○江戸時代	礎石建物 掘立柱建物 版敷界溝 石組水路 井戸 埋蓋遺構	陶器 磁器 瓦 金属製品 石製品 木製品 木簡
2	徳島城下町遺跡一出来島本町一丁目地点一（徳島公共職業安定所および徳島障害者職業センター庁舎新営工事）	徳島市出来島本町1丁目5番	650㎡ (調査面積) 2,600㎡ (延べ面積)	13.4.1～13.8.31	○江戸時代	土坑 柱穴 石組水路 溝 池 状遺構	陶器 磁器 白磁 青磁・瓦 金属製品 石製品 土製品 木製品
3	観音寺遺跡（道路改築事業一徳島環状線国府工区一）	徳島市国府町池尻字高道12他	5,861㎡ (調査面積) 16,550㎡ (延べ面積)	13.4.1～14.3.31	○古墳時代 ○飛鳥時代 ○奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代	掘立柱建物 土塚墓・土坑・溝・水田跡 自然流路	土師器 須恵器 陶器・磁器・瓦 鉄器・銭貨 木製品 骨 貝 炭化物
4	敷地遺跡（道路改築事業一徳島環状線国府工区一）	徳島市国府町敷地字北浦356他	5,251㎡ (本調査面積) 420㎡ (県道平島国府線調査面積) 14,286㎡ (本調査面積) 840㎡ (県道平島国府線延べ調査面積)	13.4.1～14.3.31	○弥生時代 ○古墳時代 ○飛鳥時代 ○奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	掘立柱建物 堅穴住居・土塚墓・土坑・溝・水田跡 自然流路	弥生土器 土師器 須恵器・陶器・青磁・白磁 瓦 土製品 石製品 鉄製品 木製品 銭貨 骨 炭化物
5	池尻 桜岡遺跡（道路改築事業一徳島環状線国府工区一）	徳島市国府町池尻字西塚むさ327他	11,320㎡ (調査面積) 29,873㎡ (延べ面積)	13.4.1～14.3.31	○飛鳥時代 ○奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	掘立柱建物 土塚墓・土坑・溝・水田跡 自然流路	土師器 須恵器 黒色土器・瓦器・土鉢・磁石
6	矢野遺跡（道路局改良事業一一般県道神山国府線）	徳島市国府町矢野553他	525㎡ (調査面積) 725㎡ (延べ面積)	13.4.1～13.6.30 14.2.1～14.3.31	○弥生時代 ○鎌倉時代	掘立柱建物 土坑 柱穴 溝 自然流路	弥生土器 土師器 須恵器・瓦器・陶器・磁器 サマコイト 木製品
7	石井城/内遺跡（県営住宅一石井曾我団地一建設工事）	名西郡石井町石井字城ノ内381-1	750㎡ (調査面積) 2,550㎡ (延べ面積)	13.4.1～13.10.31	○弥生時代 ○奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	掘立柱建物 堅穴住居 土坑 柱穴 溝 水田跡	弥生土器 土師器 須恵器・陶器・磁器・石鉢 石帯 鉄器
8	古町遺跡（県道板野川島嶺道路改築（住宅関連）事業）	板野郡板野町大寺字楠ノ本40-1他	1,204㎡ (調査面積) 3,736㎡ (延べ面積)	13.4.1～13.9.30	○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	掘立柱建物 土塚墓 土坑 柱穴 溝	須恵器 土師器 黒色土器 緑釉陶器 灰釉陶器 青磁 土師器 瓦器 須恵質土器 土師器 土師土師帯 柄頭 鉄器 銭 人骨
9	町口遺跡（道路改築事業一宮川内牛島停車場線）	板野郡古野町西条字町口27～10他	1,085㎡ (本調査)	14.4.1～14.3.31	○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	土坑 柱穴 溝	土師質土器 須恵質土器 瓦器 陶器 磁器
10	中庄東遺跡（道路改良事業一出口太刀野線）	三好郡三好町中庄719他	1,763㎡ (調査面積) 3,155㎡ (延べ面積)	13.10.1～14.3.31	○飛鳥時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	土塚墓・区画溝・石列 土坑 柱穴 水田跡 自然流路	土師器 須恵器 陶器 土師質土器 瓦器 磁器
11	大楠遺跡（県代行緊急道路整備事業一町道光下新町線）	三好郡三好町堤間字池田2236他	1,420㎡ (調査面積) 4,100㎡ (延べ面積)	13.7.1～14.1.31	○縄文時代 ○弥生時代 ○室町時代	土坑・柱穴・溝・水田跡	縄文土器・弥生土器・須恵器 土師器 瓦器 陶器 磁器 石器・鉄製品 石製品 銭貨

○主体となる時期

外部委託事業関連埋蔵文化財発掘調査業務一覽

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
12	中庄東遺跡(加茂第1地区堤防事業)	三好郡三加茂町中庄434他	3,847㎡ (調査面積)	H13.4.1~13.9.30	○飛鳥時代 ○奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	土壇墓・殿治炉・炭石遺構・土坑・柱穴・溝・道路状遺構	土師器 須恵器 土師質土器 須恵質土器 陶器 磁器 石 鉄滓
13	東州津遺跡(一般国道32号井川1C開道改良工事)	三好郡池田町字州津西ノ久保295-1他	714㎡ (本調査)	14.1.1~14.3.31	○縄文時代 ○弥生時代 ○古墳時代	土坑・柱穴・溝・池状遺構 炭灰	弥生土器 土師質土器 須恵質土器 サスカイト片

○主体となる時期

試掘埋蔵文化財発掘調査業務一覽

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
14	八万大山遺跡(一般国道192号徳島南環状道路一大野地区)	徳島市八万町大山239-1他	12,536㎡ (試掘対象面積)	13.11.1~13.12.31	○縄文時代 ○弥生時代 ○古墳時代 ○平安時代	なし	縄文土器・弥生土器・土師器 須恵器 埴輪片 黒色土器 鉄製刀子
15	井田遺跡(一般国道55号日和佐道路一井田地区)	海部郡由岐町井田字久保685-1他	5,750㎡ (試掘対象面積)	13.10.1~13.10.31	○縄文時代 ○平安時代	なし	縄文土器 土師器 石器
16	天神遺跡(道路改良事業一宮川内牛島停車場線)	麻植郡鴨島町牛島字天神638-2他	5,850㎡ (試掘対象面積)	13.4.1~13.4.30	○室町時代	なし	土師質土器 陶器
17	中庄東遺跡(加茂第1地区堤防事業)	三好郡三加茂町中庄186-1他	9,510㎡ (試掘対象面積)	14.1.1~13.2.28	○平安時代 ○鎌倉時代	土坑 柱穴 石列	土師器 須恵器 土師質土器 須恵質土器 陶器 青磁

○主体となる時期

開場整備事業関連埋蔵文化財発掘調査業務一覽

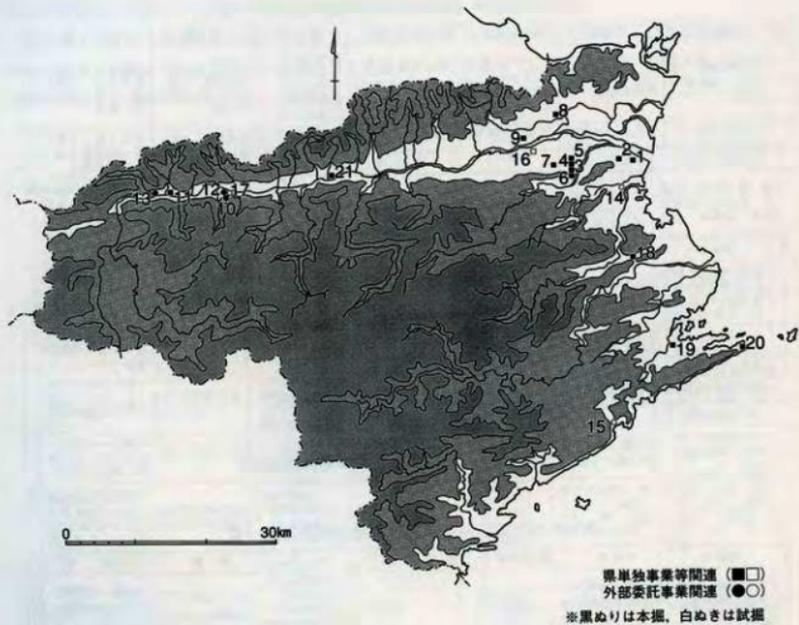
No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
18	中田遺跡(県営開場整備事業一立江 郷浜地区)	阿波郡市場町大字切幡字吉友221他	500㎡ (本調査)	13.9.1~13.10.31	○古墳時代 ○平安時代 ○室町時代 ○江戸時代	土坑 柱穴 自然流路	土師器 須恵器 土師質土器 陶器 磁器
19	樽地遺跡(県営担い手育成基盤整備事業一福井地区)	海部郡海部町芝字岸能上48他	500㎡ (本調査)	13.11.1~13.12.31	○弥生時代 ○平安時代 ○鎌倉時代	土坑・畦畔・溝・池状遺構 自然流路	弥生土器 石斧 赤彩土師器 須恵質土器・瓦器・埴輪陶器・青磁 土鍬
20	蓮生田遺跡(中山間地域総合整備事業一橋東部・蓮生田地区)	阿南市柿町蓮生田77他	500㎡ (本調査)	13.4.1~13.5.31	○縄文時代 ○弥生時代 ○鎌倉時代	柱穴 池状遺構	縄文土器・弥生土器・土師器 瓦質土器 石器
21	別所遺跡(県営担い手育成基盤整備事業一若岩地区)	美馬郡脇町2277他	1,300㎡ (本調査)	13.11.1~13.12.31	○弥生時代 ○古墳時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	柱穴 焼土痕	弥生土器 須恵器 土師器・土師質土器・土鍬

○主体となる時期

遺跡地因整備事業

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
22	分布調査	徳島市 小松島市 那賀郡 勝浦郡	24,504ha	13.4.1~14.3.31			

○主体となる時期



発掘調査地

なか とく し ま ち ょ う い つ ち ょ う め
中 徳 島 町 1 丁 目 遺 跡

所在地 徳島市中徳島町1丁目5番地 他
 調査期間 2001年4月1日～2002年3月31日
 担当者 光山 原 植谷 近藤 喜多 高橋



1 調査地点の位置（徳島）

調査概要 本遺跡は、徳島城がおかれた城山の東側、現在は城東高校の敷地内に位置する近世城下町遺跡である。天正13年（1585年）豊臣秀吉から阿波国を与えられた蜂須賀家政は徳島の地に城を築き、城下町の建設を進めた。城のある潤山を中心として、吉野川支流 新町川などの乱流する中洲に形成された徳島 福島寺島 常三島 住吉島 出来島の6つの島と新町 富田・助任～前川 佐古の各地区から構成され、発達していった。当該地区は「惣構」と呼ばれる徳島城の外郭「徳島」に位置する。調査地は寛永年間（1624～1628年）「御山下絵図」（忠英様御代御山下絵図）には「侍屋敷」と記され、元禄4年（1691年）「御山下絵図」（綱矩様御代御山下絵図）には「太田亀之丞」「立木伝左エ門」、享保年間（1728～1730年）「御山下絵図」には「賀嶋弥右エ門」「太田新五兵衛」「立木関之丞」の記載がみられ、500石取り程度の藩士の屋敷が構えられていた。安永2年（1773年）に蜂須賀駿河喜儀（十代藩主 蜂須賀重喜四男）が屋敷を構え、安政年間（1854～1859年）「御山下島分絵図 徳島」には「蜂須賀安芸」「坪内主水」「仁尾内膳」と記載されており、調査地は幕末（明治2年 藩制改正）まで主に蜂須賀氏（最終は蜂須賀安芸喜永）の屋敷であったことが読み取れる。



2 調査地点と城山

遺構と遺物 今年度の調査区では、4時期（中世末～幕末）の遺構面（生活面）が確認された。第1遺構面（18世紀後半～幕末）では、礎石建物（屋敷）跡、蔵の基礎と考えられる石列、「蜂須賀」「坪内」両家の屋敷区画の石組溝（水路）



3 土師質土器小皿出土状況

や構造物(塀)の基礎と思われる石列、屋敷の周囲を巡っていたと思われる石組水路、大量の瓦や日常生活で使用された陶磁器類、食物残渣(貝殻など)などを廃棄した土坑、井戸、トイレと思われる埋甕遺構などを確認した。出土遺物には蜂須賀の替紋である「稲丸」の家紋入り軒丸瓦や泉州瓦職人の刻印のある平瓦、焼塩壺、日常の生活道具(食膳具類、灯火具、文具類、遊具類)などが出土した。木製品の中には木簡もみられ、現在9点確認されており、遺物洗浄の進行によっては若干の増加が予想される。荷札と推定されるものには「山田織部」「猪山」の記述がみられる。

第2遺構面以下は、後世に盛土、整地が繰り返され、残念ながら屋敷地の区割の変遷を明確に捉えられるものは少ないが、絵図に記された蜂須賀氏以前の武家(立木家)の屋敷地であったことを示す「藤丸」の家紋入り軒丸瓦なども出土しており、今後の発掘資料の検討により明らかになっていくものと考えられる。

また今回の調査では第4遺構面(16世紀末~17世紀初頭頃)においても遺構(掘立柱建物跡、鋤跡)遺物が確認された。

まとめ これまでも徳島城下町の発掘調査が実施されているが、大規模かつ面的に侍屋敷地の中心を発掘調査できたのは事例が少なく、城下町の様相を把握する上で重要な資料が得られた。

また第4遺構面(16世紀末~17世紀初頭頃)においても遺構(遺物)が確認された。旧徳島動物園跡の発掘調査成果ともあわせて眉山城関連の遺構の可能性が考えられる。今回の発掘調査で蜂須賀氏の阿波入府以前、城下町が形成される以前の段階または城下町形成初期段階において人々の生活の痕跡が確認されたのは旧徳島動物園跡の調査に次いで2例目で、城下町形成以前または形成初期の様相を知る上で注目される。(原)



4 第1遺構面「蜂須賀」「坪内」屋敷境



5 第1遺構面 石組水路



6 第4遺構面 掘立柱建物



7 木簡出土状況

とくしまじょう かまち

徳島城下町遺跡 (出来島本町1丁目地点)

所在地 徳島市出来島本町1丁目5番

調査期間 2001年4月1日～2001年8月31日

担当者 斎井藤

調査概要 調査地は北の助任川と南の新町川に囲まれた三角州状の地域（いわゆる瓢箪島内）に立地する。また、調査区の南は元禄年間までは主要道路の一つである讃岐街道に接している。江戸時代、この地区には中級武士の侍屋敷が並んでいたことが絵図等からもうかがえる。

主な遺構 調査の結果17～19世紀にわたって、第1から第4遺構面が土坑等の多くの遺構を伴って検出された。また、各遺構面とも讃岐街道に沿う溝や直交するものなど、ある程度の屋敷の方向性が確認された。

主な遺物 遺物総点数は24,000点を超える。内訳は近世陶磁器、木製品、瓦、金属製品、貝殻、土製品（含む玩具）、古銭等多岐にわたる。

陶器では瀬戸美濃系、京信楽系、肥前系、備前、大谷、丹波、明石、堺、伊勢、淡路など多くの産地のものが出土した。その多くは日常雑器であり、搦鉢、火鉢、消壺、焙烙、壺、徳利、瓶、皿、鍋、等であった。絵志野の入り隔平向付や半環足付の向付や織部なども砂目および胎土目唐津などとともに出土した。磁器はそのほとんどが一般的に「伊万里」「有田」と呼ばれる肥前系の呉須による染付を施されたものであり、皿、徳利、碗などを中心に数多く出土した。また少数ではあるが輸入白磁等も出土した。土製品は土鍾等の他は玩具がほとんどであった。

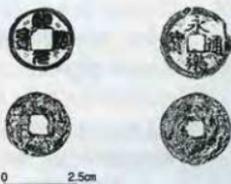
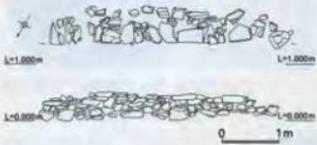
まとめ 今回の調査で出来島地区における中級武士の侍屋敷のようすが讃岐街道との関係も含めてある程度把握できた。多くの遺構や出土遺物は当該地域の江戸時代を中心とした近世を考える上で重要な資料となる。 (斎)



1 調査地点の位置 (徳島)



2 第3遺構面発掘状況



3 SD3002に伴う石列と出土銭貨

観音寺遺跡

所在地 徳島市国府町池尻字高道12他
調査期間 2001年4月1日～2002年3月31日
担当者 氏家 新居 宮谷 高田
 宮本 元木 川村 田所



1 調査地点の位置 (川島)

調査概要 観音寺遺跡は標高約6mの沖積地に位置している。調査区の西側には舌洗川が流れており、この川の古い堆積が調査区内を南東から北西方向にかけて横切るように存在している。南側に隣接した昨年度の調査区からは、奈良～平安時代の木簡や木製品等の遺物が多く出土している。今年度の調査では計5枚の遺構面が確認されている。第1～3遺構面からは水田、第4遺構面は水田と川跡、第5遺構面からは土壇墓群と川跡がそれぞれ検出された。

第1～4遺構面

調査区内の土層の堆積は舌洗川の影響により、西側に向かって緩やかに傾斜している。検出された水田もこのような地形の状況に合わせた経営が成されている。検出された水田は第1遺構面が3枚、第2遺構面が5枚、第3遺構面が12枚、第4遺構面が9枚となっており、時期が下るにしたがって大区画に変遷していくことが確認された。各遺構面の時期は出土遺物などから、第1～2遺構面が中世～近世、第3遺構面が平安時代、第4遺構面が奈良時代と考えられる。

SR4001・SR5001 飛鳥時代～奈良時代にかけての川跡である。同じ川跡であるが、当初幅が約30mであったのが、埋没過程の結果、奈良時代になると2～4mほどの流れになっている。SR5001内からは7世紀代の土器と供に木槌、櫂などの木製品が出土しており、SR4001内からは8世紀前半の土器と供に人形、舟形、斎串などの律令祭祀具や木簡が出土している。(氏家)



2 第4遺構面完掘状況



3 SR5001完掘状況

敷地遺跡

所在地 徳島市国府町敷地字北浦356他
調査期間 2001年4月1日～2002年3月31日
担当者 森江 若佐 齋 堤 喜多 高橋
 木村 松田 田川

調査概要 敷地遺跡は鮎喰川西岸の河川堆積による沖積地上に立地する。調査地点の標高は現地表面で約6mを測る。遺跡はこれまで3次にわたる発掘調査により弥生時代後期から室町時代にいたる複合遺跡であることが確認されている。本年度の発掘調査は2000年度調査区の南側に隣接する位置で微高地の北側と東側の縁辺部にあたる。遺構面は1～3区では3面確認され、その他の調査区では水田面2面流路1条が検出された。

鎌倉・室町時代 鎌倉 室町時代の遺構面は主に溝と土壌墓が中心に検出された。溝は幅約2～4mを測るもので西側の調査区外から続き調査区内で北に向きを変え終了する。その形状から区画を目的とした溝と思われる。土壌墓は隅丸長方形の平面プランをもつもので、長軸を南北方向にもつものが主体を占めた。

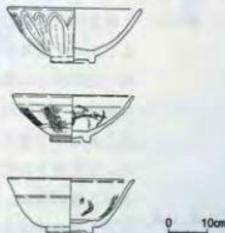
土壌墓 ST2015 1区のST2015は長軸1.37m、短軸0.8m、深さ0.25mを測り人骨が1体分残存していた。人骨は比較的残存状況がよく北頭位で膝を折り曲げた状態で右側体部が下になるように埋葬されている。また平面プランと土層断面の観察により木棺の枠板と底板痕跡と思われる厚さ2～3cmを測る粘質土層の堆積を確認した。木棺の痕跡は土壌墓の掘りかたとほぼ同じ形状で掘りかたから数cmの隙間をもつ。副葬品はほぼ完形の蓮弁文青磁碗が1点頭部の西側から正位置の状態で出土し、出土レベル差から木棺の蓋上に置かれていたものと推測される。この青磁碗と対角上の南東コーナー側には砂岩の立柱石があり土壌墓の構造や葬



1 調査地点の位置 (川島)



2 ST2015人骨出土状況



3 鎌倉時代出土遺物 (青磁碗)

送の際の儀礼の様子が推測される。

SR2001 4区の南側において西大堀川の旧河道の西側の立ち上がり部分を確認した。暗灰色粘質土を基本層序にもち、最下層には砂礫層が堆積する。出土遺物には9世紀代の土師器片が多く、それに加えて斎串などの木製品がみられた。



4 SR2001 斎串出土状況

古墳時代 1区、2区、3区において竈をもつ堅穴住居跡が確認された。総数約30軒を数える。1、2区では主に調査区中央から南側にかけて分布がみられた。検出された堅穴住居跡のうち竈を確認できた遺構は26軒あり、東に竈を設けるもの3軒、西側に竈を設けるもの1軒でそれ以外は北側に竈を付設する。



5 2区 第3遺構面完掘状況

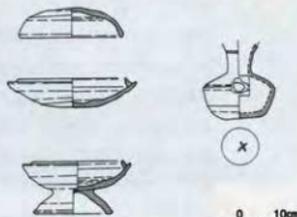
SB3010 2区で確認された4.5×3mの隅丸長方形の平面プランをもつ堅穴住居跡で南北方向に長軸をとる。竈は北側壁中央部に付設され、煙道部をもつと考えられる。結晶片岩の板石を3枚用い門構え状に組み上げ竈の補強材または支脚としている様子が確認できた。



6 SB3010 竈 完掘状況

弥生時代 弥生時代後期と考えられる遺構面が最終遺構面として確認されたが、遺構、遺構の検出はほとんどみられなかった。1区と2区の北側は微高地の縁辺部となり北側へ向けて急激に落ち込みを見せ、弱い谷状地形が西へと続く。この谷の北西側はもう一つの微高地があり再び標高は高くなるなど当時の地形復元が可能となってきた。

まとめ 今回の調査では古墳時代～奈良 平安時代と鎌倉時代を中心とした遺構面2面においてまとまった成果が得られた。特に古墳時代後期の遺構面では微高地上での住居跡の展開など集落の様相がとらえられ、過去の調査成果とあわせて考えることができるようになった。また鎌倉時代では区画を目的としたと思われる溝のほか、木棺や副葬品など土壙墓における埋葬状況を復元できる希少な例となった。(田川)



7 古墳時代出土遺物

いけ じり さくら ま
池尻・桜間遺跡

所在地 徳島市国府町池尻327他
調査期間 2001年4月1日～2002年3月31日
担当者 佐藤 山本 高柳 大北 林 大橋

調査概要 本遺跡は吉野川と鮎喰川によって形成された沖積平野上で標高5～6mに位置する。調査区の北側には飯尾川、南東側には西大堀川があり、この2つの小河川に挟まれた地域にあたる。調査の結果、飛鳥時代の遺構面と奈良時代から鎌倉時代にかけての3時期の水田面を検出した。飛鳥時代の遺構面では、自然流路が南側から飯尾川に合流していることが明らかとなった。この流路はその後徐々に埋没し、水田として耕作されている。

水田跡 第1水田面は鎌倉時代、第2水田面は平安時代、第3水田面は奈良時代から平安時代に形成されたと考えられる。これらの水田面では南北にN-10°-Wの大畦畔を1条確認した。幅は推定4～5mで、第3水田面が形成された当時に構築されたと見られ、鎌倉時代以降に埋没していることが明らかとなった。また約100m東の調査区でも、同様の大畦畔の存在が確認された。条里に関連する遺構であると考えられる。

第4遺構面 第4遺構面では土坑213基、柱穴83基、溝状遺構52条、自然流路1条を検出した。土坑のうち土壙墓と見られるものが125基含まれる。平面形は長軸1.5～2m、短軸約1m、深さ0.5～1mである。遺物は少ないが、飛鳥時代と見られる甕が出土している。自然流路は幅約20m、深さ0.5～1.2mで最下層からは同時期の杯蓋が出土している。

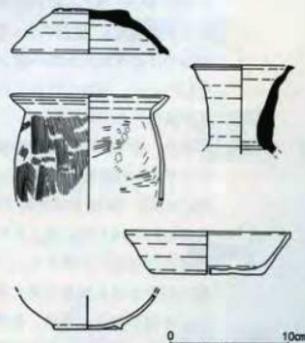
まとめ 本地域では従来よりN-10°-Wの条里地割が残る地域であると指摘されていたが、この地割りの起源が奈良時代にさかのぼる可能性があることが明らかとなった。(大橋)



1 調査地点の位置(石井)



2 第4遺構面完掘状況(南より)



3 出土遺物

矢野遺跡

所在地 徳島市国府町矢野553
調査期間 2001年4月1日～2001年6月30日
 2002年2月1日～2002年3月31日
担当者 相原 島田



1 調査地点の位置 (川島)

調査概要 調査地は西を気延山、東を眉山山塊に挟まれた鮎喰川左岸平野部の、標高約10mの微高地上に立地する。周辺におけるこれまでの調査によって、調査地の西には南北方向の流路が、東には弥生時代の堅穴住居群が確認されており、今回の調査地点が集落の西辺部にあったものと予想された。

第1遺構面は弥生時代から江戸時代までの広い年代幅で遺構が切り合うため、まず上位の遺構を完掘し、その後に下位遺構(弥生時代)を調査した。第2面では南北方向の流路が検出されたものの、遺物は皆無であった。

主な遺構・遺物

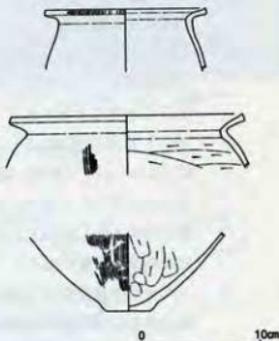
第1面の上位遺構では、調査区西辺で流路SR1001が検出され、土師器杯片を入れた完形の瓦器碗(鎌倉時代前期)が出土した。水辺における祭祀の痕跡であると思われる。

下位遺構では弥生時代後期の溝SD1011(幅3m、深さ1m)、SD1012(幅2m、深さ0.8m)がN-30°-Wの方向で検出された。また長辺1.5m、短辺0.8mの長方形土壇ST1002では弥生時代後期の壺・甕が数個体出土したほか、遺物を伴わない同規模の土壇2基が検出した。

まとめ 今回、非常に小規模な調査であるにもかかわらず多くの成果が得られた。とくにSD1011 SD1012は、隣接する徳島市教委の調査区で検出された同方向の溝とあわせて3条が、集落城の西辺部に位置する。これらの溝は、集落内外を分ける境界の溝であった可能性もある。今回の調査結果は、集落の規模や構造を含め、当地域における当該期の景観復元のための重要な資料になると思われる。(島田)



2 弥生時代遺構面完掘状況



3 出土遺物 (弥生土器)

いし い じょう の うち 石井城ノ内遺跡

調査地 徳島県名西郡石井町石井字城ノ内381-1

調査期間 2001年4月1日～10月31日

担当者 木村 松田

調査概要 本調査地は吉野川下流南岸に位置し、その流域に沿って形成された沖積平野上に立地する。町内においては最も遺跡の密集した状況にある。遺構面は中世以前では3面を数え、弥生時代、古代から中世と予測し、検出を行った。その結果、弥生時代では当時の生活の様子に関わる遺構をとらえ、8～9世紀以後は水田が拡がることを推察した。

主な遺構・遺物 第3遺構面（室町時代）では稲株跡、鋤溝、足跡、そして約10mの間隔の畦畔を検出し、13世紀前後の須恵器 土師器が出土した。第4遺構面（平安時代）では調査区東側において稲株跡、鋤溝、人口流路を検出し、西側では土坑を検出した。遺物は8～9世紀頃の須恵器 土師器が出土し、包含層上位では腰帯具（スレート製石帯）を確認した。第5遺構面（弥生時代）では炉跡を含む竪穴住居跡、堀立柱建物跡および大規模な廃棄土坑などを検出した。さらに土坑からは、弥生時代後期から中期にあたるまでの土器（壺 甕 杯など）とともにサヌカイト製石鏃が出土した。

まとめ 今回の調査では水田と、それに伴う施設を平安～室町時代にかけて検出した。また弥生時代においての竪穴住居跡、堀立柱建物跡3基の検出と大規模な廃棄土坑に伴う極めて多量な弥生土器（中～後期）の出土は、当時の集落の様子を知る上での貴重な資料となる。以前の調査と絡めても、この地域は古くから北西方向の微高地に住居 建物が拡がり、人々の生活の場があった。また、南東方向には水田が拡がり、収穫の場があった。以上のことが明らかになったといえる。（木村）



1 調査地点の位置（川島）



2 SK5005遺物出土状況



3 出土遺物（土器）

ふる まち 遺 跡

所在地 板野郡板野町大寺字楠ノ本40-1 他
 調査期間 2001年4月1日～9月30日
 調査担当 須崎 喜多 高橋 梶河

調査概要 阿讃山脈南麓の平野部に位置し、三方を宮川内谷川、黒谷川、旧吉野川によって囲まれた低湿地に立地している。標高は約5mで、3枚の遺構面を確認した。

第2遺構面 鎌倉時代とみられる廃棄土坑や土墳墓を中心に、2区北側の微高地上に集中している。

ST2001では人骨が検出された。北頭位横臥屈葬で西向きに埋葬されている。頭部に副葬品が集中し、青磁碗、瓦器碗、土師器碗、小皿などが配されていた。棺の痕跡は確認できなかったが、埋土に鉄釘が数点含まれていたことから、棺に納められていた可能性が高い。

第3遺構面 1区と2区、2つの微高地上に遺構が集中する。平安時代とみられる溝と掘立柱建物跡を中心とし、その間に土墳墓が点在する。

ST3001は、長軸1m、短軸66cmの隅丸方形の土墳墓である。主軸方向は、S-20°-Eで、残存する深さは約30cmである。底部には長さ約55cm、幅約35cm、深さ約6cmの隅丸方形の掘り込みがあり、南側には口縁部を北に向け、横倒し状態で置かれたほぼ完形の土師器鍋がみられた。鍋は上からの圧力でつぶれたとみられるが、中には頭蓋骨と歯が残存していた。他の部分の骨は確認できておらず、また鍋以外に副葬品はみられなかった。鍋は9世紀頃のものともみられ、出土状況から南頭位の屈葬であったと考えられる。

ST3002は、主軸方向がほぼ東西を指す隅丸方形の土墳墓である。長軸東側は調査区外にのびている。確認できた長軸は約80cm、短軸は約35cm、深さは約20cmである。副葬品はなく、歯のみを確認した。



1 調査地点の位置 (川島)



2 SK2020遺物出土状況



3 ST2001人骨出土状況

石 帯 SD3017より出土した深緑色の緑色片岩製で、完形の丸軋である。長さ25.85mm、幅42.00mm、厚さ8.20mm、重量18.80gを測る。潜り穴式の3孔で、表面に縦方向、裏面に斜め方向の研磨痕がみられる。

柄 頭 鉄芯に青銅の薄板を張ったもので、内部には木質が残存している。花菱文の装飾が施されており、この部分には鍍銀が施されているものと考えられる。

出土人骨の鑑定結果 出土人骨の鑑定は、徳島大学医学部解剖学第一講座石村和敬教授、同法医学講座徳永逸夫助教教授に依頼した。概要は次の通りである。

ST2001の人骨は、右を下にした側臥位で、上肢、下肢を屈曲した形になっていた。骨の配置に不自然な所がないので、元々この姿勢で埋葬されたものと思われる。身長は左上腕骨を算定根拠とした場合には約153cm、左大腿骨を算定根拠とする場合とすると156.4cmとなる。実際は若干これより低かったと推測される。高年齢（およそ60歳）の男性で自然死したものと推測される。

ST3001の人骨は、頭蓋骨の一部と歯のエナメル質のみ残ったもの11個が採取できた。恐らく男性で、咬耗が少ないところから比較的若いと推測される。

ST3002の人骨は、確認できたのが歯のエナメル質部分のみ17個である。下顎の前歯の咬耗が少なく、比較的若いと推測される。歯の大きさから男性と推測される。

まとめ 国府と郡頭駅を結ぶ線に近い立地と、国府周辺の条里に近い方向に構築された溝、石帯の一部や緑軸陶器、灰軸陶器などの遺物からは、官衙との関連を窺わせる。

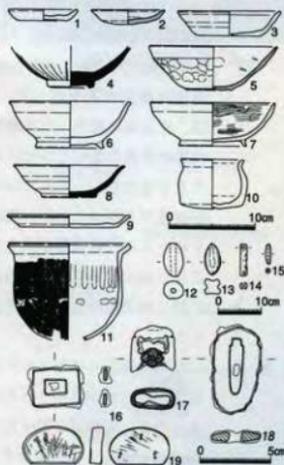
一方大小様々な土鍾は、水辺の人々の生活を偲ばせる。当ても官川内谷川の畔にあったであろう当地は、純然たる官衙というのではなく、官衙に関連する何らかの機能を有する集落であったのではないか。(須崎)



4 第3遺構面完掘状況



5 ST3001遺物出土状況



6 出土遺物 (1~10: S=1/5, 11~15: S=1/10, 16~19: S=1/3)

まちぐち
町口遺跡

所在地 板野郡吉野町西条字町口27-1他

調査期間 2002年1月1日～3月31日

担当者 須崎 梶河

調査概要 吉野川下流北岸の後背湿地に面した微高地上に位置する。標高は約12m、調査区の現況は水田である。調査区は2カ所設定され、平成11年度調査区の北側を1区、平成12年度調査区の北側を2区とした。

1 区 溝や土抗を中心とする遺構面1面を検出した。SD1001は幅約30cm～1m、深さ約40cmの南北方向に構築された溝で、調査区中央部で東側に直角に曲がる。埋土には土師器片、瓦器片などが含まれていた。1区の遺構では、遺構内遺物のほとんどが鎌倉時代のものではあるが、近世以降のものとみられる遺物も少数含まれていた。11年度調査区と比べて遺構の標高が高いこと、遺構面、遺構埋土の土質から、近世以降に構築されたものである可能性が高いと考えられる。

2 区 平安時代の遺物を含む包含層を確認したが、遺構は確認できなかった。SD1005については、埋土中に鎌倉・室町時代の土器片、磁器片等が多数含まれていた。しかし溝の肩が床土直下まで立ち上がっていて構築された層位が確認できないことや、底部より近世以降のものとみられる遺物が出土したことなどから、近世以降に構築されたものか、もしくは近世以降に再掘削されたものである可能性が考えられる。

まとめ 11年度調査で確認された方形区画を伴う屋敷地の広がり期待された本年度調査区ではあったが、北側ほど扇状地の押し出しに伴う砂利層が浅く、流路変更や耕作による削平を受けやすくなることもあって遺構面を確認することはできなかった。(梶河)



1 調査地点の位置 (川島)



2 1区遺構完掘状況



3 2区SD1005

なか しょう ひがし 中 庄 東 遺 跡

所在地 三好郡三加茂町中庄719地
調査期間 2001年10月1日～2001年3月31日
担当者 河野 深田 岩佐 井藤

調査概要 調査地付近は、鎌倉時代前期に荘園が存在し、本調査地は金丸庄中庄に位置する。また、碁盤目上に区分けされた地割が残っている。調査区は、便宜上1区～8区に区分し、今回の調査では、飛鳥時代から江戸時代にかけての遺構、遺物を検出した。

主な遺構・遺物 本調査で検出された遺構の内訳は、ピット571基、土壌墓138基、溝状遺構27条、自然河川2基を数える。

主な遺構は、6区南から7区南にかけて出土した幅約2m、検出長50m、深さ70cm～120cmのSD1012である。南肩部に石列を伴う溝状の遺構は、方形区画溝の南側に位置する。屋敷があったとされる区画溝のほぼ中央に敷石と思われる集石がある。大きな柱穴も1基検出したことから、区画屋敷への南の入り口と考えられる。埋土状況は、上層が粒径1cm程度の礫層で最下層が粘質土である。粘質土の中には、14世紀と思われる土師器の杯や皿等がほぼ完形で数点出土した。昨年度の調査で区画溝の北東部が検出され、今回の調査により区画屋敷の規模は、約15,000㎡と想定される。また、屋敷内の調査は遺構全体の一部にすぎないが、調査区の北側に遺構が多かったことから生活区域は北側に拡がるものと考えられる。

まとめ 今回の調査により方形区画溝の位置関係や屋敷内の生活様式等が明らかになりつつある。また溝の埋土上層部の江戸時代以降の瓦や陶磁器等の遺物や地域の住民の話から近年まで区画溝が地割として存在していたようである。

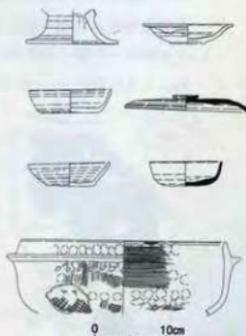
(河野)



1 調査地点の位置 (池田)



2 SD1012 (石列状況) 西より



3 出土遺物

おおがき 大柿遺跡

所在地 三好郡三好町昼間2236-1 他
調査期間 2001年7月1日～2002年1月31日
担当者 相原 島田

調査概要 本遺跡は吉野川上流域北岸の、標高80m前後の微高地上に立地する。調査区は東側を1区、西側を2区とした。1区は4面調査され、第2・3遺構面から柱穴・土坑を多数検出した。平安時代から室町時代にかけての集落城南縁部にあたると考えられる。2区では微高地南西側緩斜面で棚田状遺構を中心に13面の遺構面を検出した。

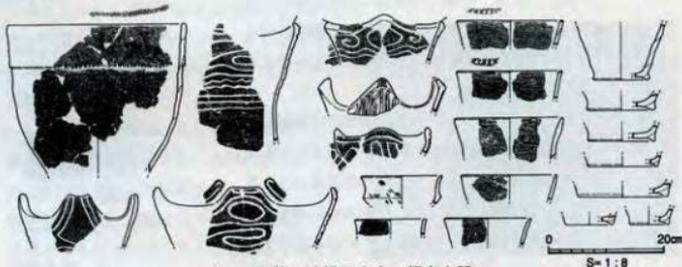
縄文時代の遺構・遺物 1区第4面で縄文時代中期末～後期初頭の遺物が、ピットや焼土を伴う土坑とともに検出された。土器の推定個体数は32点で（口縁に基づく）、うち27点が深鉢である。文様は有文16点、無文13点である。底部19点のうち高台状17点、凹底2点で前者が圧倒的に多い。この組成は瀬戸内中西部や高知平野中西部に顕著で、徳島平野東部との製作技法の差異を示すとみられる。これらは北白川C式、矢部奥田式、星田式に類縁するものの、細部において一致せず、本地域の当該期における良好な基準資料となるものと考ええる。また縄文時代後期前～中葉の遺物が上位の遺構面や包含層からも少数出土している。（島田）



1 調査地点の位置（池田）



2 1区第4遺構面



3 1区第4遺構面出土の縄文土器

なか しょう ひがし
中 庄 東 遺 跡

所在地 三好郡三加茂町中庄434地
調査期間 2001年4月1日～2001年9月30日
担当者 河野 深田



1 調査地点の位置 (池田)

調査概要 調査地は、吉野川南岸上流、標高65～67mを測り北から南に向かって緩やかに下っている沖積地に位置する。現況は水田である。

今回の調査では、飛鳥時代から室町時代にかけての遺構、遺物を検出した。なお調査区は便宜上1区～5区に区分し調査した。

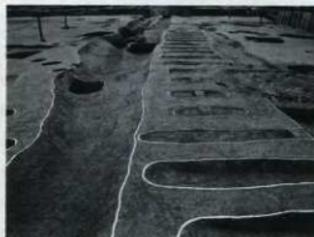
主な遺構・遺物 本調査で検出された遺構の内訳は、ピット784基、土壇墓182基、溝状遺構11条、炉跡2基、不明遺構9基を数える。

主な遺構は、1区東から5区にかけて多数出土した土壇墓群である。この地点は、末石遺跡で検出された土壇墓群から東へ100m程の地点にあたる。今後集落と土壇墓域の関係についても調査検討する必要がある。

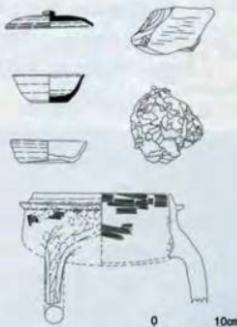
1区東側では調査区をほぼ南北に走る道路遺構を検出した。両端に幅80cm程の溝を付設し、道路面の内幅が約2mで、検出長15m測る。年代を決定するに足る遺物が少なく時期を断定することは難しいが平安時代後半から室町時代の年代幅を考えておきたい。

また、4区北側や5区で検出した集石遺構は、所々で焼土を伴い、遺物も炭や炭化物が付着した土師器、銅鉄などが出土したことから鍛冶関連の遺構だと思われる。ただ鍛冶炉の形状は残存せず断定はできない。

まとめ 今回の調査で、土壇墓群や鍛冶関連遺構等、当該地域の飛鳥時代から平安時代の生活様式が明確になった。中庄東遺跡の発掘調査は本年で4年目である。今後、集落域や土壇墓域、墓制、条里溝等の調査を検証することで、一層明確に把握できるものと思われる。(河野)



2 道路遺構 (南より)



3 出土遺物

ひがし しゅう づ 東 州 津 遺 跡

所在地 三好郡池田町字州津西久保295番地1他
調査期間 2002年1月1日～2月28日
担当者 深田 井藤

調査概要 調査対象地点は、吉野川上流域の北岸で阿讃山脈南麓に形成された標高86～87mの河岸段丘上に位置する。調査区は昨年度の調査区の東に隣接する部分を1区、道路をはさんで北側の部分を2区と設定した。2区は住宅の通路部分で分断されるため、西側から2-1区、2-2区、2-3区、2-4区の4区画に分割した。1区からは、自然流路 溝ピットが検出された。2区からはピットが検出された。遺物の大部分は土師器 須恵器片で、13～14世紀のものと思われる。

自然流路 SR1001 1区の北西から東南東方向に流れている。流路内からは多くの石が発見されたが、これは流路に自然に流れ込んだものと思われる。自然の流路が存在するため、遺構面の標高は南が高く北へ低くなっている。流路内からは弥生時代中期後半～末の壺と思われる土器片など、弥生土器や石器が数点出土した。

まとめ 今回の調査では、1区で検出された自然流路が調査区の中央部を西から東へ流れていたことが判明した。1区は、北半分が流路で南半分が流路の南岸部である。2区は、北から南へ遺構面が低くなっているため、1区で検出された流路の北岸部ではないと思われる。明確な遺構は検出されなかったが、多くの土器片が出土したことから、流路の周辺には集落が形成されていた可能性が高い。また、1区の約30m 東付近を試掘調査した結果、1区の流路と同様の土層堆積が確認できたので、本地点より東部に流路が延伸し遺跡の広がる可能性が高いと思われる。(深田)



1 調査地点の位置 (池田)



2 1区 自然流路 (西より)



3 2-2区 完掘状況 (東より)

試掘調査

所在地 発掘調査一覧表参照
 調査期間 2001年4月1日～2002年2月28日
 担当者 佐藤 須崎 木村

犬山遺跡 本遺跡は海拔0m付近の湿地がほとんどを占め、團瀬川と通称「七つ山」に囲まれる。調査区全般に貝殻を含む粘土層が堆積しており、遺構面が形成された形跡は確認できなかったが、東側で弥生土器を含む包含層や縄文土器が出土した。さらに東側の山裾には遺構の存在の可能性も考えられる。(須崎)

田井遺跡 本遺跡は2つの、尾根に挟まれた、谷から田井川右岸の沖積地にかけての平坦地に位置し、標高2～3mを測る。谷奥部では厚い客土、腐葉土層、砂利層がほとんどで、遺物遺構は確認できない。しかし、東側山裾部で縄文時代中期前葉の深鉢、スクレイパー、サヌカイト片などの遺物を含む層を確認した。(須崎)

天神遺跡 調査対象地は、吉野川中流域の南岸にあり標高は10～12mで、現況は水田畑地として利用されている。調査の結果、ほとんどのトレンチで表土、床土の下にシルト層、細砂層、砂礫層が堆積しており、特に目立った遺物遺構は検出できず、これらの堆積が多いことから吉野川の氾濫域であったと推測される。(佐藤)

中庄東遺跡 調査地は吉野川の自然堤防上にあたり、北に砂層、南に微高地が広がる。この微高地で13世紀頃の、土師器、須恵器、そして青磁器片が出土する包含層の存在と遺構面をとらえた。また、炭化物の分布を伴う土坑や柱穴を検出した。調査区西側及び北側では一定のラインを境に極端に標高は下がり、砂礫層となり、遺物遺構も確認できなかった。(木村)



1 犬山遺跡 調査地点の位置 (徳島)



2 田井遺跡 調査地点の位置 (日和佐)



3 天神遺跡 調査地点の位置 (川島)



4 中庄東遺跡 遺構検出状況 (14トレンチ)

圃場整備関連調査

所在地 発掘調査一覧表参照

調査期間 2001年4月1日～2001年12月31日

担当者 元木 斎 木村

中田遺跡 調査地は那賀川左岸下流の沖積平野に位置し、樺洞庄の中心であった古八幡のある宮の内地区の入口にあたる。また調査区内には四国参拝道（旧参道）の分岐点もある。県営圃場整備事業に伴い道路や水路の予定地域内を調査した。調査の結果、自然流路等の遺構の他、鎌倉時代等の遺物や客土中から4世紀頃の土師器片が出土した。付近に古墳時代初頭頃の集落等の存在が考えられる。（斎）

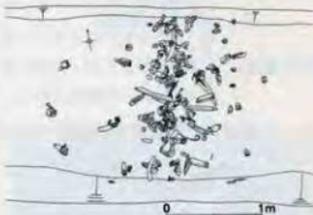
椿地遺跡 調査地は福井川支流の椿地川沿いに位置する。福井壘と下福井壘の中間点にあたり、隣の大谷地区には平安時代末の線刻の弥勒菩薩像が現存するなど、福井庄の存在も考えられる。調査の結果、水流を塞ぎ止める平安時代の橋（シガラミ）の遺構や弥生時代の石器等15,000点を超える遺物の出土をみた。（斎）

別所遺跡 本遺跡は徳島平野の下流の沖積平野に位置し、徳島市より西方約50kmに所在する。周辺では河岸段丘が発達し、沖積層の肥沃な堆積層は水田として利用されている。調査区は吉野川の氾濫層の堆積が広がる。その中で調査区北端において包含層が確認され、土錘等、弥生時代の遺物が出土した。また、炭化物 焼土の分布がみられるとともに、堀立柱建物を検出した。（木村）

蒲生田遺跡 本調査地は阿南市椿町蒲生田岬先端に位置し、縄文土器、弥生土器、陶磁器、銅銭等縄文～近世にわたる多数の遺物が出土した。中でも、中央部のトレンチ砂層中より縄文中期の船元式とみられる土器片が出土し、南部西部のトレンチで、潟湖の岸と考えられる自然遺構を検出し、生活跡の存在を予想した。（元木）



1 中田遺跡 調査地点の位置（阿波富岡）



2 椿地遺跡 「橋」平面図



3 別所遺跡 調査地点の位置（脇町）



4 蒲生田遺跡 調査前風景

遺跡地図整備事業

調査地 那賀郡木頭村、木沢村、上那賀町、相生町、鷺敷町、勝浦郡上勝町、勝浦町、小松島市、徳島市

調査期間 2001年4月1日～2002年3月31日

担当者 近藤 玲



1 徳島市丈六町・小松島市田浦町遺物散布範囲(徳島・阿波富岡)

事業概要 昨年度に引き続き、本事業は国庫補助対象の事業であり、徳島県教育委員会の委託を受け、財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施し、県内各市町村教育委員会にも協力を得ている。

地図作成状況 吉野町、北島町を除く、県下50市町村中48市町村の地形図をデジタル化した。また、平成13年度の分布調査成果の入力を終了し、平成12～15年度の分布調査対象市町村の考古学データを入力している。

分布調査成果 今年度は約25km²を分布調査した。この調査結果と既存の考古学データからすると、徳島市丈六町周辺と小松島市田浦町、田野町の丘陵沿いには、弥生時代～古墳時代の遺跡が、遺存状態良好な形で存在することが予想される。また、那賀郡相生町鮎川西ノ宮では、今回の調査でも縄文時代後期の遺物が多量に採集されたことから、徳島県内でも重要な遺跡であることが追認できた。さらに、徳島市八多町、多家良町、浪野町、方上町、上八万町、勝占町、大松町、小松島市田野町、中郷町には、中世以前の遺物がまとめて発見されている地点がある。したがって、以上の地域では、できる限り遺跡の現状を把握し、開発工事などによる遺跡破壊に対して、とくに注意が必要である。

まとめ これらのデータをもとに、今後刊行予定の遺跡地図に掲載すべき遺跡範囲の認定を行い、次年度以降、デジタル化された遺跡地図システムの構築を試行する。(近藤)



2 徳島市丈六町採集遺物



3 小松島市田浦町採集遺物

Ⅳ 整理事業報告

今年度は四国縦貫自動車道第10次区間（脇～美馬）及び第11次区間（美馬～川之江）建設関連、一般国道192号線徳島南環状道路改築事業関連、一般公共事業関連など7事業に伴う28遺跡の整理作業に担当職員20人、整理作業員延べ24,000人が従事した。

主な整理業務内容は、次のとおりである。

四国縦貫自動車道（美馬～川之江）建設に伴う荒川遺跡では、平成8～9年度に発掘調査が実施された際に確認された縄文時代から近世にかけての遺物の基礎整理と図面整理を中心に作業を行った。

一般国道192号線徳島南環状道路改築事業に伴う観音寺遺跡では、平成9～10年度の発掘調査で出土した遺物の内、木製品を中心に木簡篇報告書作成の作業を行った。また矢野遺跡では、14年度報告書刊行（縄文編）に向けて整理作業を行った。

県営住宅（石井曾我団地）建設工事に伴う石井城ノ内遺跡では、平成12年度（8次）に行われた発掘調査及び3次調査等で出土した遺物について、整理作業を行った。（貞野）

出土品整理業務一覧表

事業名	遺跡名	所在地	委託者	整理期間	整理担当者	遺跡の概要	整理概要	備考	
県営住宅（石井曾我団地）建設工事	石井城ノ内	名西郡石井町石井字石井	住宅課	2001/4/1～2002/3/31	岡 山	縄文～近世の集落 生産遺跡	図版作成まで	報告書は14年度に刊行予定	
文化館 香通美術館（仮称）整備事業	中前川町2丁目	徳島市中前川町2丁目21番地他	生活文化国際総合	2001/4/1～2002/3/31	日 下	近世武家屋敷	基礎整理まで		
徳島教野川島線道路改築（住宅団地）事業 南代行徳島地方道路整備事業（町道穴下新町線）	古 町	秋野郡秋野町大寺橋ノ本	道路建設課	2001/4/1～2002/3/31	斉 藤	古代・中世の集落	報告書刊行		
道路改良事業（出口太刀野線）	大 橋	三好郡三好町足岡字池田2238ノ1他	道路保全課	2001/4/1～2002/3/31	山 治 幸 友	弥生～近世の水田	基礎整理まで		
道路改良事業（出口太刀野線）	中庄東	三好郡三好町中庄431ノ1他	道路建設課	2001/4/1～2002/3/31	下 須 幸 友	古代の官衙	基礎整理まで		
四国縦貫自動車道	原 I Ⅱ	美馬郡原町大字北庄字原1138他	日本道路公団四国支社	2001/4/1～2002/3/31	金 島	中世の集落			
	鶴 野	美馬郡原町大字北庄鶴野1212の1他				中世の集落			
	依城 I Ⅱ Ⅲ	美馬郡原町大字原町字依尾屋1370ノ1他				弥生の集落			
	井 口	美馬郡原町大字井口270他					報告書刊行		
	池ノ邊	美馬郡美馬町字池ノ邊104							
	宮ノ宮	美馬郡美馬町宮ノ宮181ノ2他					中世の集落		
	下栄山	美馬郡美馬町字中横尾60ノ3他							
	東原	三好郡三好町大字足代字東原67ノ1他				金 島 久保誠	弥生～近世の集落	基礎整理まで	
	丸山	三好郡三好町大字勢字丸山				久保誠	弥生～中世の集落	図版執筆まで	報告書は14年度に刊行予定
	花園	三好郡三好町大字太刀野字花園遺物					中世の集落		
太刀野山 I Ⅱ	三好郡三好町太刀野字西久保1228ノ1他	島 野		報告書刊行					
台	三好郡三好町大字足代字ノ80336ノ1他								
宮ノ岡 I Ⅱ	三好郡三好町大字足代字ノ80319ノ1他								
兎川	美馬郡美馬町字兎川45他		島 野 大 北	縄文～近世の集落	基礎整理まで				
西原	三好郡三好町大字足代字西原768他	大 北	弥生前期の集落	基礎整理まで					
大橋	三好郡三好町大字足代字西原768他	横田 新田 小島 繁生	弥生～中世の集落 生産遺跡	報告書刊行					
一般国道192号 徳島南環状線	矢野1群 観音寺	徳島市国町町矢野字青木401ノ1他 徳島市国町町観音寺466他	国土交通省四国地方整備局	2001/4/1～2002/3/31	貞野 作雄 西宮 藤川 森 植 地	縄文～中世の集落 古代の官衙	基礎整理まで 原稿執筆まで 報告書は14年度に刊行予定		

V 埋蔵文化財センターの活動

平成13年度の普及啓発活動は、平成12年度からの新規事業も含めた従来の業務を継承し、新しい工夫を加えながら活動を展開した。

展示部の経営としては、常設展示室の横の実習室に、土器や石器に直に触れて体感できるコーナーを常設することとした。また、団体来館については、主として小学生を対象に、要望に応じて石器づくり体験を始めた。

企画展としては恒例の速報展と前年度から開始した移動展を開催した。

その他、中徳島町1丁目遺跡（城東高校）における現地説明会、敷地遺跡における発掘体験を伴う遺跡見学会、各種研修の受け入れ、各種研究会への参加（講師を含む）等の対外活動を行った。

資料の活用の面では、37件の貸し出しがありその中に、レプリカの全国巡回展への出品があった。この他実見、実測などの依頼も10件近くあった。

本年度の来館者数は、近隣に県立の大型公園が夏に開園したことで、秋の遠足シーズンに小学生などの団体来館が減少し、これがそのまま総数の減少につながった。

以下、各活動の状況を紹介する。

1 企画展

(1) 速報展

埋蔵文化財速報展は、会期を前期、後期に分け、前期には四国横断自動車道関連以外の主要な発掘調査の成果を、そして後期には横断道関連の調査成果を公開することとした。したがって後期は、12年度の横断道関連の発掘調査成果に過去の調査成果も一部加えることで、阿讃山脈東南縁の古墳群を概観する内容とした。

また、速報展期間中、展示に関連する内容の連即講座を開講し、4回の調査成果報告会と展示解説を行った。そのうち2回は講演会を含む催しとした。本年度の講演会は2回とも例年以上に盛況で、100名近い人数が集まった。

速報展関連連続講座

期日	内 容	講 師	参加人数
7/29	調査成果報告（中庄東、田宮 古町 各遺跡）	島田研究員、須崎研究員	34名
8/5	調査成果報告（御船屋 蒲生田、観音寺 敷地 各遺跡）	斎研究員、田川研究員	52名
8/19	調査成果報告（大代古墳） 展示解説 講演（石棺をめぐる考察）	幸泉研究員、田川研究員 倉敷考古館長 間兼忠彦氏	89名
8/26	調査成果報告（西山谷古墳群） 展示解説 講演（邪馬台国時代の阿波と畿内の関係等の考察）	原研究員、田川研究員 徳島文理大学教授 石野博信氏	98名

期間中の来観者数 1,221人

(2) 移動展

センターから遠隔の地になる県南部や県西部を中心に、速報展の展示物や会場近辺の出土資料を抜粋し、展示した。

本年度は協町教育委員会 商工観光課との共催で協町うだつの町並み吉田家住宅を会場に10月27日から11月6日まで11日間開催した。この間の総観覧者数は1,163人であった。



協町埋蔵文化財移動展

(3) その他

○鳴門教育大学附属小学校多目的棟完成披露式当日を含む展示会

期 間 4月24日～5月2日

展示資料 南前川町一丁目遺跡関連近世遺物、写真、説明図

○名西高校文化祭における展示会

期 間 9月11日～9月12日

展示資料 石井町および阿波国府関連遺物、写真、遺跡分布地図

2 考古資料の貸出

No	貸出先(申請者)	目的	貸出資料	期 間
1	新人物往来社	専門誌掲載	観音寺木簡写真等	4/25～5/28
2	徳島県立博物館	資料撮影 参考	大代石棺展示風景写真	5/18
3	上勝中学校	授業用参考資料	大柿 石庵丁等(実習室分)	5/26～6/3
4	(財)大阪府文化財調査センター	巡回展(列島展)	石棺レプリカ	5/25～2/28
5	鳴門市教育委員会	企画展示	大代古墳写真パネル	6/21
6	上勝中学校	授業用参考資料	稲持 庄遺跡等遺物	6/23～7/8
7	大阪大学出版会	専門書掲載	矢野銅鐸出土状況写真	6/26
8	佐野美術館(三島市)	図録掲載	色絵碗(新蔵町 南前川町)	7/7～10/31
9	鳴門市教育委員会	論集掲載	土器(向香山 黒谷川等)	7/18～7/18
10	岡山大理文センター高田浩司氏	論文掲載	打製石剣(庄遺跡)	7/17
11	吉川弘文館	専門書掲載	観音寺木簡見取図 写真	8/1～8/31
12	徳島県立博物館	論文掲載	磨製石庵丁	7/30、8/6
13	新人物往来社	専門誌掲載	鏡像写真(中庄東)	7/31
14	共同通信社大阪支社	新聞掲載	観音寺木簡写真	8/5～8/25
15	辻 佳伸氏	講座資料提示	中島田遺跡等写真	8/11～8/19
16	徳島県立博物館	イベント見本	縄文土器(矢野遺跡)	9/13～9/18
17	一宮博物館	論集掲載	矢野銅鐸B面写真	9/10～10/20
18	四国放送第2制作部	番組放映	萩原墳墓群航空写真	9/20
19	徳島市教育委員会	公共刊行物掲載	矢野銅鐸写真	9/21～3/31
20	ジャパン通信情報センター	専門誌掲載	観音寺遺跡出土木簡写真 資料	10/5
21	ジャパン通信情報センター	専門誌掲載	中庄東遺跡現況資料および写真	10/5
22	徳島市教育委員会	図録掲載	恵解山9号墳写真 図版	10/23
23	天羽利夫氏 菅原康夫氏	論文掲載	庄遺跡 井口遺跡石器	14/3
24	兵庫県教育委員会	論文掲載	観音寺遺跡 論語木簡写真	11/5～12/21

No	貸出先(申請者)	目的	貸出資料	期間
25	鳴門市教育委員会	講座資料	光勝院寺内遺跡写真	11/8~11/13
26	佐伯建設	社内報掲載	中徳島町1丁目遺跡 現況資料	12/4~1/15
27	岩崎書店	社会貸料集掲載	大代古墳全景写真	1/15~2/15
28	青潭社	専門誌掲載	大柿遺跡 棚田写真	1/17~3/26
29	笠間書店	図録掲載	観音寺遺跡論語木簡写真	1/16
30	㈱ニチブン	CD-ROM 掲載	阿讃山脈東南縦遠景 写真 地図	1/22
31	鳥根県埋文調査センター	報告書掲載	矢野銅鑄出土状況写真	1/31~2/28
32	徳島市教育委員会	企画展示	立善寺跡他瓦類	1/30~4/7
33	国立歴史民俗博物館	巡回展示	観音寺遺跡木簡レプリカ	2/1~4/30
34	ジャパン通信情報センター	専門誌掲載	中徳島町1丁目遺跡 現況資料	2/22
35	日本道路公団徳島工事事務所	ビデオ掲載	大代古墳関連写真	2/27~3/10
36	㈱セレプロ	ビデオ掲載	観音寺木簡写真	3/30~5/31
37	高岡市万葉歴史	図録 HP 掲載	観音寺木簡等写真館	3/8~3/22

3 職員の対外活動

本年度の、職員の各種研修会等への参加(講師を含む)および各種委員の任命状況は次のとおりである。

No	期 日	人 員	内 容
1	6 2	菅原康夫	徳島大学工学部 OB 会総会講演(講師)
2	6 6、6 13、6.27、7 4	小泉信司、幸泉満夫	板野高校外部講師招聘事業(講師)
3	8.29	菅原康夫	徳島県測量技術協会講習会(講師)
4	9 6~7	貞野保仁、近藤 玲	全理協 コンピュータ等研究委員会(参加)
5	10.4~5	青木秀明、田所政儀	全埋協研修会(参加)
6	10.19	栗林誠治、植地岳彦	辻高校外部講師招聘事業(講師)
7	10.25~26	本浄敏之、菅原康夫、原 芳伸	全理協中国四国九州ブロック会議(参加)
8	11.1~2	菅原康夫、光山忠幸、氏家敏之	四国埋蔵文化財実務担当者会議(参加)
9	11.28	菅原康夫	JH 徳島工事事務所安全協議会講演(講師)
10	12.18	菅原康夫	県シルバー大学校特別講座(講師)
11	3 7	近藤 玲	産学連携シンポジウム(発表者)

- 藍住町文化財審議会委員 氏家敏之
 ○国分尼寺整備検討委員会委員調査指導 菅原康夫
 ○徳島市立考古資料館資料検討委員会委員 菅原康夫

4 発掘現場における普及啓発活動

(1) 現地説明会

遺跡名	中徳島町1丁目遺跡(城東高校)
期 日	12月1日(土)
内 容	徳島城の外郭に位置する蜂須賀駿河家の屋敷跡などの公開と解説。
参加人数	285名



現地説明会(中徳島町1丁目遺跡)

(2) 遺跡見学会

遺跡名	敷地遺跡(徳島市国府町)
期 日	8月24日(金)
内 容	発掘調査の意義説明 敷地遺跡の概要説明と体験発掘
参加人数	31名



(3) その他(発掘現場見学 体験発掘)

遺跡の見学・発掘体験(中庄東遺跡)

No	遺跡名	期 日	参加者	内 容
1	中庄東遺跡(三加茂町)	6月26日(木)	三庄小学校 91名	遺跡説明 体験発掘
2	敷地遺跡(徳島市)	12月25日(火)	国府中学校 6名	遺跡説明 体験発掘

5 来館者(展示部)

(1) 来館団体一覧

月	小学生	中学生	高校生	一 般	計(人)
4月	174	3	0	351	528
5月	220	10	1	383	614
6月	29	52	79	191	351
7月	45	3	0	235	283
8月	115	15	5	833	968
9月	37	1	0	175	213
10月	133	0	1	513	647
11月	162	2	11	245	420
12月	37	0	37	109	183
1月	22	4	1	101	128
2月	6	0	0	55	61
3月	33	5	1	234	273
計	1,013	95	136	3,425	4,669



小学生の石器づくり体験活動

6 各種研修の受託

期 日	研 修 会 名	内 容	参加人数
8月2日	初任者研修(企業等研修)	業務説明、整理現場見学、発掘体験	14名
8月7日	社会科 地歴科 公民科研修講座	業務説明、施設見学、整理作業体験	16名
10月11日	第1回市町村埋蔵文化財担当 専門職員研修会	徳島県内4市町村からの状況報告と質疑 徳島県教育委員会文化財課からの報告	42名
10月15日 ～3月7日	外務省長期青年招聘事業 (カンボジアより)	発掘調査現場研修、整理現場研修、国内 県内考古関連資料館、建築物等視察	1名
12月13日 ～14日	高校生インターンシップ (板野高校 城南高校 阿波高校)	講話、整理現場体験、施設見学	23名
2月27日	第2回市町村埋蔵文化財担当 専門職員研修会	講演会講師 徳島大学 東 瀬 教授 演題 「鳥居龍蔵と東北アジア踏査行」	43名

7 郷土教育教材整備事業

教材名	移動教材セット「体感!阿波の古代人」
内容	遺物セット 説明パネル 石材見本 年代ベルト
対象	学校 社会教育
利用方法	貸し出し、出張授業

8 ホームページ管理

発掘調査の動向やセンターの施設や活動等についての情報を発信する手段として4月1日より公開。

○アクセス数 4,129

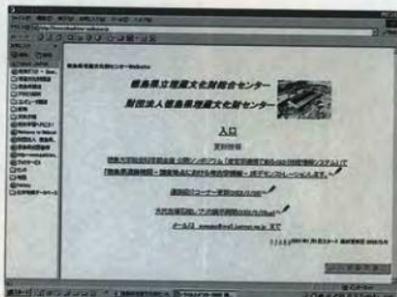
○コンテンツ

センターの施設利用案内

センターの業務および活動紹介

遺跡の紹介

リンク集 他



9 本年度受贈図書数 1,627冊

10 刊 行 物

- 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第33集
「矢野遺跡(1)Ⅱ群 第1分冊 徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財調査報告」
- 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第36集
「南前川町1丁目遺跡 鳴門教育大学(附小)校舎新営に伴う埋蔵文化財調査報告」
- 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第37集
「大柿遺跡 縄文 弥生編 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告18」
- 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第38集
「土井遺跡 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告19」
- 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第39集
「吉水遺跡 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告20」
- 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第40集
「観音寺木簡Ⅰ(木簡編) 徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財調査報告18」
- 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第41集
「原遺跡他 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告21」
- 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第42集
「花園遺跡他 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告22」
- 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第43集
「古町遺跡 県道板野川島線道路改築事業に伴う埋蔵文化財調査報告」
- 「徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 12 2000年度」 (青木)

徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.13

—平成13(2001)年度—

平成14年6月30日

- 編 集 財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字平山186番2
TEL (088) 672-4545 FAX (088) 672-4550
<http://www.tokushima-maibun.or.jp>
E-mail awapa1@ma5.justnet.ne.jp
- 発 行 徳島県埋蔵文化財研究会
印 刷 ㈱教育出版センター
〒771-0138 徳島市川内町平石流通団地27番地
TEL (088) 665-6060 FAX (088) 665-6080